

a 学校教育目標	地域に愛着と誇りを抱き、 夢の実現に向け自ら学びを求め、行動できる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域・保護者の信頼を得、心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校
----------	--	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の業務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置」に関する指針に基づいた取組の構築と推進	・教職員の時間管理能力の向上 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選及び学校行事等の見直しや改善	100%	62.0%		62.0%	C	○各月45時間を超えない達成率 4月33.3% 5月59.3% 6月50.0% 7月85.7% 8月100.0% 9月74.0%	○学年部での業務内容の標準化の見直し ・役割分担の明確化 ・業務内容の見直し ・既存のデータの活用 ○積極的な生徒指導の推進 ・自己決定の場の設定 ・共感的人間関係の構築 ・自己肯定感の育成 ○個々の業務遂行能力と時間管理能力の育成 ・勤務時間の把握 ・短期スパンによる計画的な業務遂行	3			・教育活動は工場での製品生産ではないので、年間を通しての評価となすべきです。 ・コロナ禍での出勤は止むを得ないと思える。
確かな学力の育成	主体的に学び合う児童を育成し、学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して、本校で育成を目指す資質・能力をもった、自ら学ぶ児童の育成を図る。 西小学校全校で読解力を高めるドリルに取り組み、本文や資料を根拠にして読み取る力を高め、学年課題に応じた基礎学力の定着を図る。	『主体的学び』に関する児童アンケート肯定的評価	85%	87.6%		103%	A	目標を達成することができた。教師側が単元で何を学ばせるか考えさせるのかを明らかにしながら、発問等の工夫をしたことで、興味をもって授業に取り組むことができたと考えられる。	必然性のある課題をあげ、問題解決型の授業を意図的に仕組み、単元を貫いていく。	2		1	・児童がアンケートの趣旨を理解しているのか。級友間での影響も考えられます。 ・教師間で、他学年との連携はどのような状況でしょうか。 ・標準学力検査における成果を一時的にも追求することによって、児童への評価に歪みが出ることは避けてもらいたい。
			『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・論理的思考力に関するアンケート	85%以上	85.0%		100%	A	ほとんどの学年が目標を達成することができた。話型をもとに考え方を述べ合う学習を積んだことで、友達の見解と比較して考え、深めることができたと考えられる。また、国語科の学習において、論理的に考えるシートを基に全校で学習を進めていることで、シートを基に考えをまとめられるようになってきていると考えられる。	引き続き全校で系統的なワークシートの活用や単元構成を工夫を図り、具体案を教師側がもち、授業を進めることで、進級しても難しさに対応できる児童の力を付けていきたい。また、研究部による重点(国語科・読むことの構成・書くことの考えをまとめて書く、算数科・面積、割合、表とグラフ)に焦点化し、全学年が系統的に取り組むようにする。	3			
			①全国学力・学習状況調査全国平均値正答率 ②業者単元テスト国語科「読むこと」全国平均値通過率 ③NRT全国平均値通過率	①2②③80%以上	①国103.0%算98.0% ②74.6% ③73.0%	①100% ②93% ③91%	B	全国学力については、国語科は平均、算数科は1点全国より正答率が低かった。NRTは、どの学年も平均値より高く前年度の学力定着率は高い。ドリル学習や宿題の統一による効果もあると考えられる。しかし、国語科読むことの単元末テスト結果は80%を超えていない。これらの原因として、進級し、問題数や質問のされ方に難しさを感じたことなどが原因として挙げられる。	全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握をし、課題のある単元を焦点化し、学年が系統的に取り組むようにする。また、全校共通の家庭学習にし、プリント国語科(主に読む)・算数科(当日習ったもの)に毎日取り組む。	3				
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して、社会性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	合唱と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して、豊かな感性・豊かな心の育成を図る。 特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して、地域を想う心情を育てるとともに、社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	学年(学級)ごとに児童の実態に応じた合唱に取り組み、仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動(詩や短歌・俳句等の音読・暗唱)を通して、自己表現に自信を持たせる。	低85%中80%高75%以上	低:92.8% 中:91.5% 高:83.5%		低109%中114%高111%	A	どの学年も、目標を達成することができた。中学年、高学年は、アンケートの回数を重ねるほど数値が高まっており、自己肯定感が高まっている。例年より、規模は縮小しているが、学校行事に参加できることで、児童の学校生活への意欲が高まっていることが要因として考えられる。	学校活動や行事が制限されている中でも、学年で出来る活動を考え、その活動に対するめあてを立てさせることで達成感を味わわせる。また、学級では、特別活動を充実させ、児童が主体的に活動することで、児童同士がより深く関わり、互いに肯定的評価ができるように仕組む。	3			・2年前(コロナ前)の状況に早く戻るとを期待しています。
			『自らへの自信』に関する児童アンケート肯定的評価	90%以上	91.3%		101%	A	目標を達成することができた。しかし、昨年度の肯定的評価は、93%であり、貢献意識が下がっている。ふるさと学習の活動が制限され、地域に出て行くことや地域の方からお話を聞いたり、関わらせていただいたりすることが難しい状況が児童の心の成長に影響していると考えられる。	一人一人に役割を持たせることで、自己存在感や自己有用感、自己肯定感を高めていくようにする。また、児童同士、児童と教師、児童と保護者で肯定的評価が行えるように、各学期のめあて等、児童の頑張りを共有していく。	3			
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ、自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的実施により児童の体力の向上を図る。 食教育や保健・安全教育の推進により、自己管理能力の育成を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに、課題克服のための取組(校内研修、外部講師による児童への直接指導、小中連携等)を充実させ、教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。	①75%以上 ②60%以上	①25.0%		33%	D	体力テストで全国平均値以上の項目(第5学年実施結果) ・男子(立ち幅跳び、反復横跳び) ・女子(握力、反復横跳び) 上記の種目以外は、全国平均値(平成30年度調査結果)を上回っており、目標を達成することができなかった。原因としては、コロナ禍で外遊ぶ機会が減ったり、体育の活動が制限されたりしたことで体力が下がっていると考えられる。	改善策としては、体力アップの指導を授業で行い、全学年で内容を統一し、習慣にできるようにする。また、「西小なわとび運動」を行って、跳躍力の向上を図りながら、運動する機会を増やしていく。	3			・残食の理由についてアンケートはされていますでしょうか。 ・意識を変えていくという改善サイクルをそれぞれの役割として、物の本質を伝えたい。
			保健指導や委員会活動などを通して、児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り、児童の自己管理能力の育成を図る。	『食育』『保健・安全』に関する児童アンケート肯定的評価	75%以上	80.5%		107%	A	・体を動かすことが楽しい 92% ・進んで外遊びや運動をしている 73% ・家庭学習で体力アップをしている 87% ・給食を給食時間に食べきっている 70% 目標を達成することができたが、どの学年も残食が多いという課題がある。また、進んで外遊びをしない児童もいる。	給食の改善策としては、全学年で給食指導の方法を統一する。特に、給食準備の指導を行い、給食時間を十分に確保できるようにする。また、食育の指導を行い、児童の食に対する意識を変えていく。外遊びについては、学級遊びなどを仕組み、外で遊ぶ機会を作っていく。	2	1	

【J: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100

C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I: 学校関係者評価 評価】

I: 自己評価は適正である。 R: 自己評価は適正でない

H: 分からない。